

# 必要な施策を積極的に

平成14年度予算が、先月開かれた市議会の第1回定例会で可決されました。予算額は一般会計1,072億3,679万円、特別会計972億5,724万円など、総額2,274億7,433万円です。新年度予算に盛り込まれた主な施策や事業などを紹介します。なお、金額の1万円未満は整理してあります。



予算の説明をする萩原市長

## 市長説明要旨

一般会計予算は  
前年比5.4%の減

本年度は市制施行百十周年の節目の年に当たります。そこで、いくつかの記念事業を計画していますが、できる限り市民の手で企画・実施を行い、多くの皆さんの心に残る事業にしたいと思えます。また、二十一世紀の新しいまちづくりを目指して、市町村合併の着実な推進を図るために、任意の合併協議会を関係町村とともに設立し、協議を進めます。そして、合併後の中核市への移行をにらみ、市の行政基盤の強化、職員の仕事遂行能力の向上を一層強めなくてはならないと考えます。

さて、本市の十四年度の歳入見込みでは、昨年度に比べ市税や交付金の大幅減になることが予想されています。

平成14年度各会計予算			
会計名	当初予算	伸び率	
一般会計	1,072億3,679万円	5.4%	
特別会計	国民健康保険	198億2,882万円	3.2%
	老人保健	248億888万円	5.8%
	中央児童遊園	1億4,075万円	8.3%
	競輪	397億9,766万円	25.0%
	嶺公園	2億2,454万円	0.4%
	農業集落排水事業	6億9,980万円	4.3%
	介護保険	117億5,679万円	11.1%
計	972億5,724万円	12.8%	
企業会計	水道事業	104億6,973万円	0.4%
	下水道事業	125億1,057万円	11.4%
	計	229億8,030万円	6.7%
合計	2,274億7,433万円	1.4%	

ました。そこで予算編成方針での要求段階で、事務事業の徹底した見直しを指示し、公債費などの特殊な経費を除き、対前年度5%減の一般財源枠配分を行いました。前年度同様歳入規模に歳出規模を合わせることを基本に、スクラップ・アンド・ビルドを行いながら、市民生活に必要な新たな施策は積極的に推進することになりました。公社など外郭団体の見直しや職員配置の適正化、補助金の統合などを進めるとともに、何事も行政に頼り、要求するという一部の市民に見受けられる意識の改革を、各所属が業務を通じて促すよう指示しました。こうした方針に沿って十四年度予算を編成し、市民福祉の向上などの新たな事業を積極的に盛り込みました。また、第五次総合計画に位置付けられた重要施策も、実施計画に沿って予算計上しました。

無料化の拡充や（仮称）総合福祉会館の完成・オープン、総合運動公園の陸上競技・サッカー場の開設、市民の健康増進とリフレッシュの場として期待される温泉を利用した健康づくり施設の建設着手、ファミリー・サポート・センターの設立などです。また、市民の安全確保、危険防止に係る公共施設の維持・改修にも予算を重点配分し、合わせて施設の延命化を図るようになりました。

この結果、一般会計の予算規模は千七百二十億三千六百七十九万円で、対前年度マイナス五・四％です。ただし、国民年金保険料の検認事務が国に移管されるための歳入歳出の減を考慮するとマイナス一・五％になります。さらに、国の十三年度補正予算に伴う大規模事業の前倒しを考慮するとプラス〇・七％に転じます。従って厳しい財政状況下でも、かなりの積極的予算となりました。